

見にくき家居交りなし、是等も國風と思ひ侍りき、地の利如何と心付見しに、五穀は勿論、瓜西瓜をはじめ、菜類となるものは、何にても他國よりも出來立よく、菓物はいふに及ばず、草木のそだち迄もあしからぬ國也、然るに貧家の多きいかならんと所々にてさぐり聞しに、當國には大いといふて、福引に似て博奕よりも甚惡敷事の流行せるよし、此故を以て風俗までも古しへにかはりて、民家の體如此といひき、又云ふ、運上にて領主より御免とも聞し○中略

肥前の國は、爰へも彼所へも入海ちまたの如く、海と海との方を僅計切ぬきなば、舟通しの出來すべき所見ゆ、天へ上りて一眼に見おろしなば、地圖も委敷、入海々々の様も正敷記すべきに、一度位の通行にては、此國の地利は、去りがたく、十にして其一を記す也、海は中國筋の入江よりも深し、

〔佐藤元海九州記行〕抑當國○肥前、鎌倉時代ヨリノ舊領ニテ、西ハ海上トハ雖ドモ、小大ノ島數甚ダ多ク、凡ソ三十里程ノ間ニ散在シ、魚鹽ヲ始メ、物産ノ利頗ル大ナリ、東方陸地ハ五十町路ニテ、方七八里、土地亦極テ膏腴ナリ、且又當國ノ山ニハ水氣甚多ク、山頂マデモ水田ヲ開キ稻ヲ作ルベシ、白堊赤堊モ多キヲ以テ、陶器ヲ燒キ出スモ極テ便ニ、石炭膏風多シ、薪炭ニ究スルノ患ヒ無シ、實ニ富豐ナルベキ國ナル哉、

〔日本地誌提要六十九〕形勢 東北山ヲ負ヒ、東南河ヲ帶ビ、地勢二支ヲ分チ、西南海ニ突出ス、其西北一支平戸島トナリ、五島群嶼ニ連ル、其南方一支、更ニ兩腋ヲ分チ、左ニ鯛浦ヲ抱キ、右ニ佐賀灣ヲ擁ス、灣ノ北方平衍、土壤肥沃、九州ニ冠タリ、物産豐饒、民俗巧慧、頗ル狡猾ニ流ル、氣候極暑九拾六七度、極寒四拾度、

道路

〔日本實測錄七〕從豐前國小倉街道至長崎○中略

肥前國基肄郡宮浦村至荒穂神社二 二十八町四十八間 田代宿昌元寺町至筑後國御原郡小